

重点施策 10 親しむ視聴覚教育の拡充と推進

【施策方針】

学校教育、社会教育における視聴覚教育の振興を図るため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、視聴覚の円滑な利用促進を図る。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 視聴覚教材の有効利用と指導者の養成
- ② 視聴覚ライブラリー保有機器・教材の充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 視聴覚教材の有効利用と指導者の養成

視聴覚ライブラリー教材を利用した「アンコール子ども映画会」を毎月1回、第4土曜日を中心に実施した。人間形成の大切な時期に視聴覚教材を通して、心豊かな人間性を養うことを目指して、親子で楽しい時間の機会を提供した。子どもたちの休日の有効活用や豊かな心を育む情操教育の一助になればと考えている。なお、平成29年度の利用者数は33名であった。

また、幼稚園、保育所、児童クラブ等へ出向いての「出前映画会」を実施し、5施設455人が視聴した。

愛媛県視聴覚教育協会が実施しているホームページ作成学習会、プレゼンテーション作成学習会、教育機器実技研修会(デジタル動画編集、電子黒板)などの研修会参加を広報などで市民に呼びかけ、指導者としての資質向上を図っている。

16ミリフィルムのDVD化を検討し、よりよい画像を残していきたい。

② 視聴覚ライブラリー保有機器・教材の充実

16ミリ映画フィルム167本、ビデオ教材718本、DVD教材61本を保有している。平成29年度は16ミリフィルムの貸出は無く、ビデオ・DVD等の貸出は43本あった。

機器で活用の多いのはパソコン対応型プロジェクターで、単に写すだけでなく、パソコンに接続し研修するケースが増えている。

教材の充実については、厳しい財政事情の中、備品購入費が少なくなってきた。

視聴覚機器は著しい進歩により、ビデオテープからDVD、さらにはブルーレイの時代となってきた。ビデオテープはテープの劣化、機器の生産中止などにより視聴できなくなりかけてきているため、早急に視聴覚ライブラリー保管(著作権の有するもの)の昔の映像をDVD化しなければならないと考えている。機会をとらえ、昔の映像等貴重な八幡浜市の資料を紹介するとともに、今後の活用について学校や公民館等に呼びかけたい。

【事務事業点検評価委員意見】

- 「アンコール子ども映画会」は、子どもの情操教育を高める上で必要と思われるが、平成29年度の利用者が33名は少し寂しく思われる。再考が必要ではないかと思う。
- 視聴覚教材は、時代とともに変わってきているので、利用者ニーズに対応できるように更新を考えてほしい。また、16mmフィルムの中にも貴重なものがあると思われるので、早期のDVD化が望まれる。

【自己評価】

- 毎月土曜日に実施している「アンコール子ども映画会」は、少子化の影響もあり、減少傾向にある。機材を持って出張している「出前映画会」は利用回数が増加している。「出前映画会」の利用者が増えているのは、保育所と児童クラブで「出前映画会」が定着してきているためである。
　　今後は、それぞれの「映画会」の在り方を工夫・改善しながら、「映画会」を通じて、子どもたちの情操教育を高め、人間形成の一助となるよう、継続したい考えである。
- 視聴覚ライブラリーでの貸し出し・活用件数の最も多いのは、パソコンとプロジェクターである。
　　今後は、視聴覚ライブラリー室に保存されている、昔の映像等貴重な八幡浜市の資料を紹介するとともに、活用方法を学校や公民館等に呼びかけていきたい。